

〈特別企画「AJELの歩みを振り返る」〉

巻頭言

2016年末にAJEL初代理事長の増田義郎先生が旅立たれた。増田先生は、東京大学における中南米研究と教育の礎を築かれた方でもあり、2017年度の第38回全国大会の開催校が東京大学駒場キャンパスであったことから、大会実行委員会では先生を追悼する企画をできないものかと考えた。だが、時間の制約と派手なことを好まれなかった先生のお人柄を考慮して、遺影をご遺族にお借りして受付に飾るにとどめた。

増田先生だけでなく、1980年の創設時から当会の発展を支えてこられた会員の多くが鬼籍に入られている。そこで、2018年度の『年報』に、学会のこれまでの歩みを振り返り未来に向けて共有するための特別企画を設けさせていただくことになった。落合一泰理事長には、増田先生の膨大かつ先駆的な業績を称えた追悼文（「大航海者」増田義郎先生を偲ぶ）を執筆していただき、また安村直己会員には闘う知識人でもあった増田先生を偲ぶ追悼文を書いていただいた（「闘う知識人，増田昭三先生」）。加えて、ベテラン会員による座談会として、京都に小林致広、住田育法、二村久則、松久玲子の4名の会員に、東京に今井圭子、遅野井茂雄、清水透、高橋均、野谷文昭の5名の会員にそれぞれお集まりいただき、〈学会創設前のラテンアメリカ研究の状況〉、〈学会設立の経緯〉、〈他学会との関係〉、〈教育と研究の関係〉、〈学会活動全体に対する評価〉の5つのテーマについて、自由に語り合っていた。最後に、宮地隆廣事務局理事に、近年のテキスト分析の展開を踏まえつつ、初期から現在までの会員の精緻なデータセットを作成し、そこからみえてくる動向を分析していただいた（「日本ラテンアメリカ学会の会員構成に関する分析」）。

執筆や登壇をお引き受けいただいた皆様、および林みどり・村上勇介年報担当理事、部会に合わせて座談会を開催することをお認めいただいた宇佐見

耕一・北條ゆかり西日本部会担当理事と井上幸孝・久野量一東日本部会担当理事には厚く御礼申し上げます。本企画を通じて、40年近くにわたる歴史の中で当会が達成してきたことと今後の課題とについて、読者が確かな情報と豊かなイメージを得ていただければ幸いです。

2018年5月

受田宏之（第38回AJEL全国大会実行委員長）